

父から息子へ。地域に貢献する 自動車钣金塗装工場の事業承継

企業の概要

企業名：ボディショップ第一
 代表者：青山 勇氏
 後継者：青山 真弘氏
 所在地：栃木県佐野市
 業種：自動車钣金塗装業
 従業員：5名



代表者の青山勇さん(右)と後継者である長男の真弘さん(左)

事業承継の概要

- 承継方法：親族内承継
- 支援方法：事業承継計画の策定支援

栃木県事業承継・引継ぎ支援センターでは、事業承継をスムーズに進めるため、さまざまな支援をご用意しています。今回は当センターで支援させていただいた、親から子への事業承継の取り組みをご紹介します。

1 事業引継ぎに至るまでの経緯

栃木県佐野市にあるボディショップ第一は、自動車钣金塗装やボディコート、デントリペアをしている企業です。代表の青山勇さんは大阪での勤務経験を活かして昭和47年4月に創業しました。当社の基本方針として、目に見えない細部や下地処理にもとことんこだわり、お客さま

に満足していただける修理工場を目指して経営を続けてきました。

平成20年には関東運輸局認証工場(自動車分解整備事業)を取得し、車検点検・整備や新車・中古車販売まで業務の幅を広げています。

青山代表は80歳を前に当社の将来像を模索しましたが、少子高齢化の影響により、自動車業界のユーザーが減少することや新技術の開発により自動運転や安全装置が普及することで、自動車に傷がつくと自体が減っていく可能性があり、今後自動車整備業が縮小することを危惧していました。

業界全体が厳しい流れにある中で、息子に継がせるには不安や悩みが多いため、第三者への譲渡も検討していた折、ある情報誌の記事で当センターを知り相談に至りました。

2 事業承継・引継ぎ支援センターでの支援内容

青山代表からの相談を受けて、まずは家族内で会社の将来についてそれぞれの立場で本音での話し合いを持つことが何より大切であることをお伝えしました。その後、家

族内で何度も話し合いを重ねた結果、父親の勇さんとしては事業を残したいが、目まぐるしく変わる環境に対応できるかどうかを息子に託すのは悩ましいと考えていました。一方で長男の真弘さんも経営者として現在の環境では事業の承継は困難であるという結論に至ったことから、当センターで引き継ぎ先を支援することになりました。

その後、数社の譲受候補先を紹介し、面談や現地視察を重ねましたが交渉は進展しませんでした。しかし、M&Aでの譲渡交渉を重ねるうちに当初は引き継ぎを断念していた真弘さんの気持ちに変化があり、第三者へ譲渡するのではなく自らが事業を引き継いで経営を継続していく意思を固



栃木県事業承継・引継ぎ支援センター
サブマネージャー
廣澤 貴典



バックナンバーはこちら

めたため、青山代表も息子の決断を尊重して経営を任せることを決断しました。

当センターとしても父から息子への円滑な事業承継のため、進め方や留意点等についてアドバイスを発行し事業承継計画の策定を支援しました。現在は承継に向けた引き継ぎを進めているところです。

3 支援による効果

一般的に「親族内承継」は取引先や関係者からの理解を得られやすく、また交代のタイミングも比較的柔軟でスムーズな対応が可能であるといわれています。

一方で、親から子への承継といっても単純ではなく、家族だからこそ話しにくいなどコミュニケーションギャップが生じやすいのも事実です。

当社も親子で事業に従事しており、お互いに仕事の話はするもののあらためて承継の話をしたことはありませんでしたが、当センターへのM&Aの譲渡相談がきっかけになり、家族内での話し合いが進展し、親から子への承継を支援することができました。



作業をする真弘さん